

## I 1 外来における在宅療養支援能力向上のための研修

研修名	外来における在宅療養支援能力向上のための研修		
研修会 開催日時	令和6年9月20日(金)～11月29日(金)e-ラーニング200分		
	令和6年12月3日(水)課題提出		
	令和6年12月14日(土) 13:30～16:00 演習		
研修形態	e-ラーニング200分(各自) 演習:集合		
受講者数	35名(会員27名:非会員8名)	(看護師34名 保健師1名) 修了証発行 33名	定員 30名
対象	外来勤務の看護職員		
ねらい	1. 外来看護職員が講義及び演習によって、地域における自施設の外来が果たすべき役割に基づきその役割を認識するとともに、必要な在宅療養支援に関する知識を習得する。 2. 習得して知識をもとに、外来看護職として在宅療養支援を実践することができる。		
講師	JNA 吉川久美子 慶応義塾大学 永田智子 他 ファシリテーター看護協会委員		
内容	プログラム参照 *日本看護協会提供のコンテンツ使用		

### I プログラム

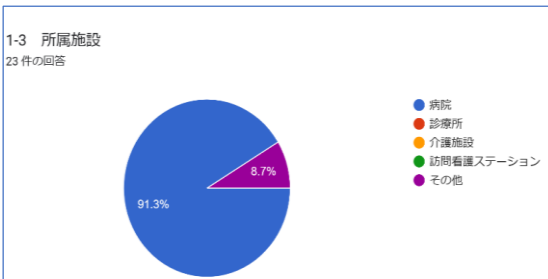
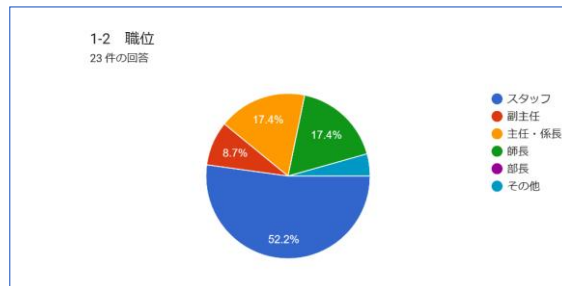
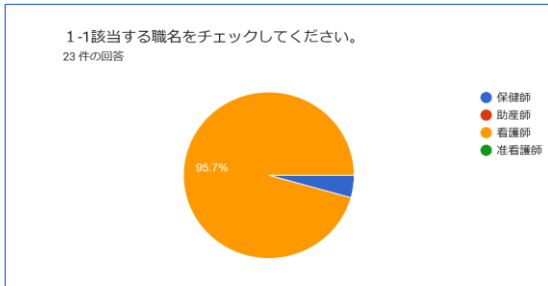
時間	方法	内容	講師 敬称省略
40分	R6.9.20(金)～ 講義1 (eラーニング)	外来看護を取り巻く現状と課題、国の政策動向等に基づく 外来看護職の役割	吉川久美子 (日本看護協会)
40分	講義2 (eラーニング)	外来における在宅療養支援	永田智子 (慶応義塾大学)
40分	講義3 (eラーニング)	在宅療養を支える地域連携とネットワーク	吉田千文 (常盤大学)
40分	講義4 (eラーニング)	在宅療養患者(外来患者)の意思決定支援	藤井淳子 (東京女子医科大学病院)
40分	講義5 (eラーニング)	在宅療養患者(外来患者)を支える社会資源	松本明子 (聖路加国際病院)
150分	演習  R6.12.14(土) 13:30～16:00	講義:地域の現状や自施設を取り巻く状況等について(20分)	森下安子(高知県立大学)
		グループディスカッション:事例検討(130分)	ファシリテーター
		全体共有	県看護協会 ファシリテーター

### II アンケート結果

12月14日(土)アンケート

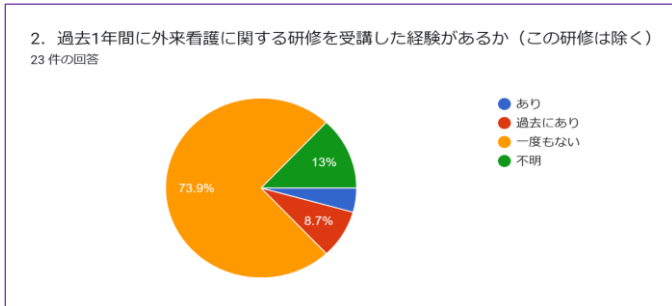
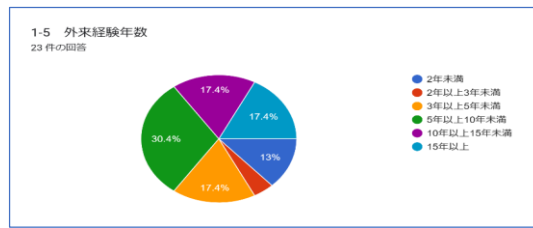
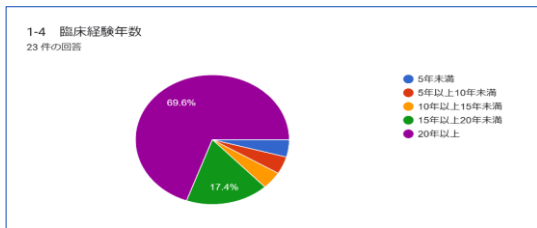
参加人数33名 回答数 23名

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答から抜粋

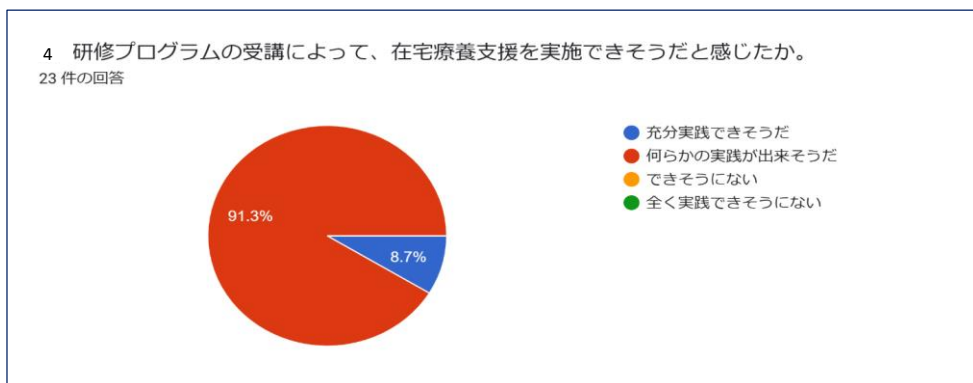
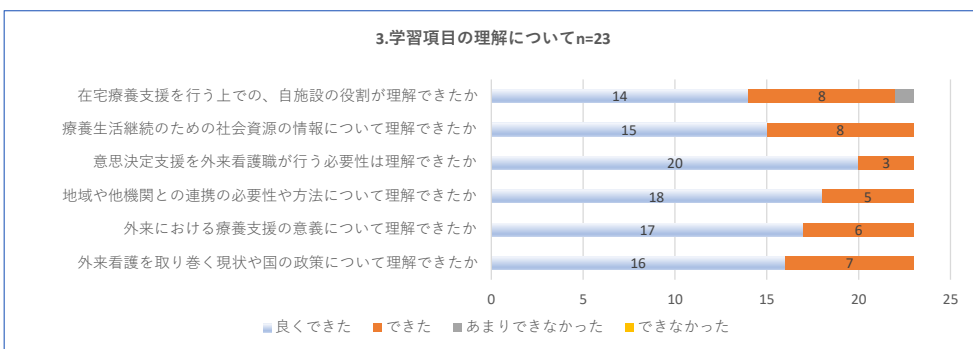


35名の所属施設は、病院が34施設、在宅医療介護支援センター1施設であった。

職位は、スタッフが24名、主任または師長が11名であった。



臨床経験年数は、20年以上が69.6%であった。令和5年度は、27%であり、臨床経験年数が高い看護職の受講が増えた。外来経験年数は、5年以上10年未満が多いが、ばらつきがある。外来に関する研修受講は一度もないが73.9%であり、全体の評価からもこの研修が有効といえる。



5. 今後実践しようと考えている内容について記載して下さい(1項目以上)

- ・ 在宅療養を行えるように窓口へ繋いでいく
- ・ 気になる患者に対する採血時などの声掛けや、地域連携室などに繋げることを実践したいと考えている。
- ・ 外来相談窓口をつくる
- ・ 退院カンファレンスに参加
- ・ 在宅療養支援強化のための環境整備を提案していきたい
- ・ 退院患者の初回外来通院時に、在宅生活での困りごとがなかったかを確認し、問題点の有無を検討したい。ACPを考えながら在宅療養支援を考えていく
- ・ 入院期間の短縮化など、なんらかの支援を必要としながら退院していく患者さんも多い。病棟からの継続看護情報の活用と、受診前日に行う事前情報の確を行い、受診日には、業務時間調整を行い、面談を行っていくことを徹底したい。そして看護記録の充実に努め、情報を共有し、ここから次へつながる継続看護を行っていきたい。

- ・ 外来看護師と介護専門職を対象とした合同意見交換会または事例検討会
- ・ 退院後初外来の患者などをピックアップして、看護介入を行い、必要な療養支援を行っていきたい。
- ・ 生活や疾患をイメージできる意思決定支援と支援者に向けたACP啓発
- ・ 退院カンファレンスなどに参加し、患者の現状や支援方法について考えを深め、外来看護機能を強化する。
- ・ 今回学んだ事を伝達学習して、在宅療養支援の必要性を話し、他のスタッフにも通常の外来業務以外にもこれが必要だと感じて貰えれば、業務改善としてもう少し患者と関われる時間を取れるようにしたりできるのではないかと思う。
- ・ 退院前カンファレンスへの参加、スタッフ同士の情報共有、研修で学んだことの伝達
- ・ 病状説明や診察に同席するときに、患者や家族の感情を受け止めるサポートをしていく
- ・ 継続看護が必要な患者を、具体化したチェック項目などで、外来スタッフが共有し見過ごさない取り組み。再入院を繰り返さない為の、多職種カンファレンスの充実。退院後訪問の拡大。
- ・ ささいな会話からも貴重な情報と意識してコミュニケーションをとっていききたい。
- ・ 新たに病気を持つ患者と家族への介入
- ・ 本人の意思決定支援、退院前カンファ参加の声かけ、入院前生活や家族の介護力の詳細を情報収集し共有できるようにする、状態に合わせた医療の提案や指導、試験外泊の試み、
- ・ 在宅療養強化
- ・ 日頃から本人の意向や方針をカルテに残す、心不全患者への問診票の活用、病歴や延命希望等の問診票の勧め
- ・ 退院カンファへの参加
- ・ 病棟と外来をシームレスに繋ぐシステム作り。町や福祉との連携
- ・ 在宅療養支援強化のための取り組み

#### 6.演習に関するご意見・感想を記載して下さい

- ・ 他施設の方からの話を聞き、同じような悩みや問題を抱えている事を知る事ができた。今後、外来看護師として自分がどうしていけばいいのかを知る事ができて良かった。
- ・ 私たちの地域における医療の現状を把握することができ、在宅療養支援を行うことの必要性を理解することができた。外来におけるシステム構築も課題ではあるが、一つづつ取り組んでいきたい。
- ・ いろいろな支援方法を聞く事ができて良かった
- ・ 様々な意見や施設での活動を聞いて新たな知見も多く、とても勉強になった。時間も午後からで集中して行えて良かった。
- ・ 在宅側の方と同じグループで在宅側の聞きたい情報や、伝達に関しての注意することなど色々聞いてよかった。
- ・ 演習内で、他施設の現状を知ることができた。
- ・ 事例を交えたことで、具体的な検討を進めることができた。地域のことや在宅の支援者のことに詳しい外来看護師の方が参加することで、医療機関の支援を越えたディスカッションができた。
- ・ たいへんわかりやすかった。高知県の医療、福祉の状況が少しでも分かったので、今後活かしたい。
- ・ 東部や西部の外来看護師さんと対面で外来看護師が出来る地域との繋がりや連携について話げできた。かかりつけ医としての病院や公的な病院や高知市との違いなど貴重な意見がきけた。5-6年前に病院で退院支援をした頃と比べて外来の看護師の意識もあり方も違って在宅を考えられるようになってきていると感じた。又このような機会があれば参加したい。
- ・ 他施設の取り組みや課題を知ることができ、自施設の課題や強化していかなくてはいけないことが学ぶことができた。
- ・ もともと知らない人と話すのが苦手で、グループワークは嫌だなあと思いましたが、実際行ってみたら、ほかの方々のお話が聞けたり、こういう意見もあるんだって楽しくて、時間があつという間に経ちました。またこういう機会があれば参加させて頂きたいと思いました。発表されていた方々の喋りが慣れて凄いなと思いました。特に6グループの方の喋りに魅力された。勉強になった。
- ・ 他院の外来の取り組み等知ることでもできても多くのことを学ぶことができた。
- ・ 日本看護協会の冊子を拝見して、事例検討の症例が介護度が高いとされる高齢者ではなく、社会的決定要因の配慮が必要な壮年期や、就労との両立が必要ながんサバイバーなどの事例がより深い検討ができたのではないかと感じた
- ・ 他施設での取り組みを参考に出来、実践に繋がりがやすいと思った。遅れをとっていると感じたが、現場で共感出来る事も多く、連帯感を感じた。
- ・ 他施設の情報も聞くことができ、刺激を受け参考になった。
- ・ 参加できてよかった。
- ・ 壮年期の糖尿病療養支援が実践で難しかったので、その療養支援についても学びたかったなと思った。
- ・ たくさんの意見や他施設での実践等参考になることばかりでした。この研修で学んだことを実践へ活かしていきたい。
- ・ 演習で多くの方の意見や体験談を知る事が出来、とても勉強になった。参加して良かった。
- ・ 他施設の取り組みを聞いてよかった
- ・ 高幡地域の現状は、血管病調整看護師研修で内田教授から良く説明して頂き、良く理解していた。出来る事をする。
- ・ 他医療機関の方の意見が聞いて良かった。

#### 【担当者コメント】

昨年より、経験年数が高い受講者が多く、課題内容からもはっきり受講動機をもって参加した受講生が多いと感じた。演習では、アイスブレイキングを入れたことでディスカッションが活発に行われた。研修目標の達成度も高く有意義な研修であった。